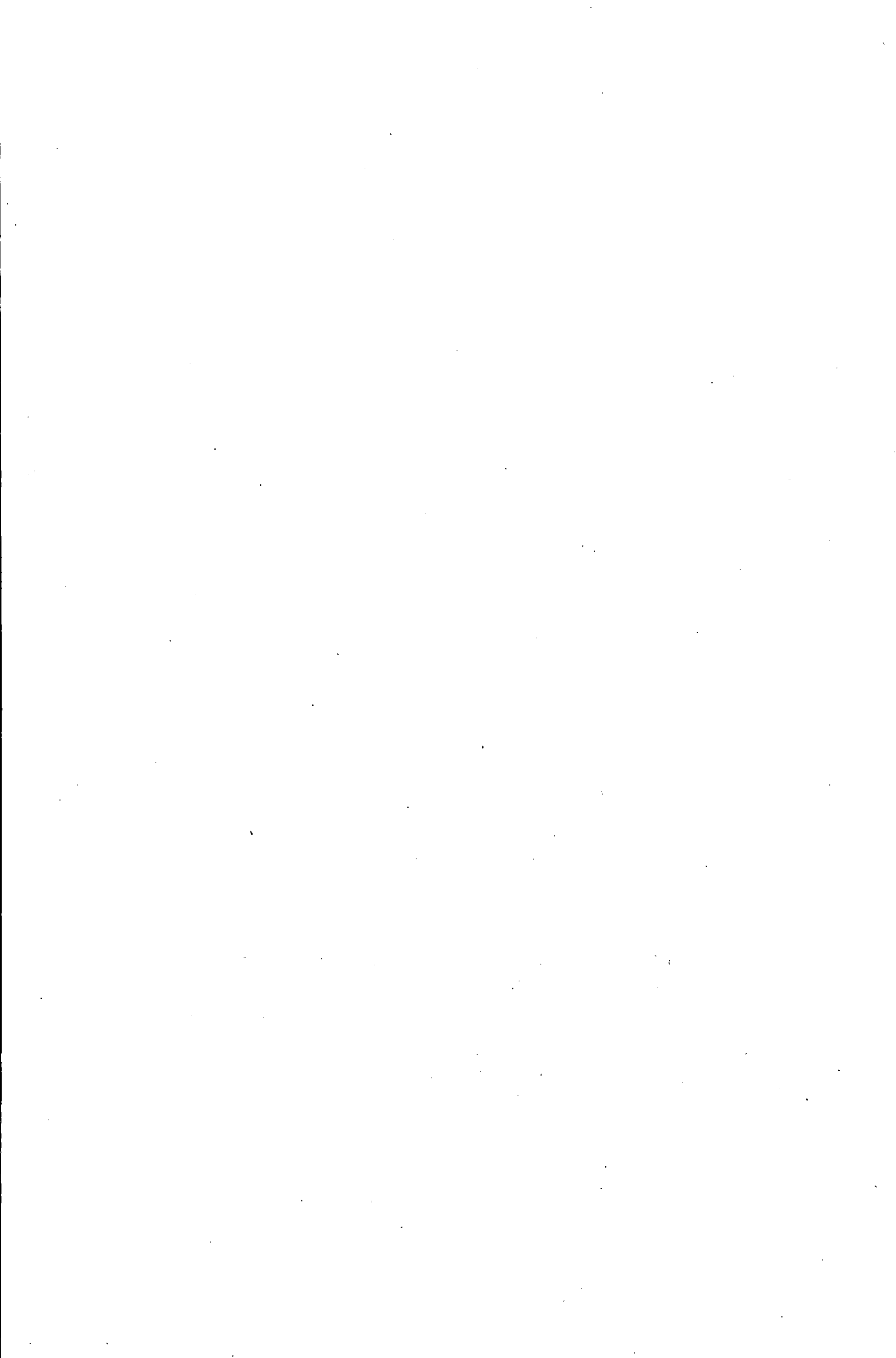


# 現地研究会記事



## 現地研究会の概要

テーマ：根釧草地農業の実態と問題点

1. 開催時期 昭和45年9月3日(木)～9月4日(金)
2. 開催地および運営主体 根室管内中標津町 根釧農試
3. 見学地(全行程バス利用)

(第1日)

- a. パイロットファーム(機械共同利用と代表酪農家)
- b. 尾岱沼
- c. 春別パイロットファーム
- d. 根釧農試
- e. 開陽台(育成牧場、はげしい降雨のため根釧原野の遠望はできず)
- f. 俣落
- g. 養老牛(泊)

(第2日)

- h. 計根別(根釧内陸優良草地)
  - i. 標茶町多和(国営大規模草地)
4. 資料 根釧農試のご尽力で上記見学地に関する現地研究会資料(総ページ28頁)を作成し、参会者に配布。

## 北海道草地研究会現地研究会の感想

### 一 現地見学を主体とした根釧草地農業の 実態と問題点一

平 島 利 昭（根釧農試）

昭和45年度の現地研究会は、9月3～4日、副題のようなテーマで開催されましたが、さすがに酪農専業地帯だけあつて、二百数十名の参加を得まして、今までにない盛会となりました。あいにく第1日目は天候が悪く、多少省略した点もありましたが、まずまずの成果と思われました。一方、会の運営中何かと行届かぬ点もあつたと思いますが、会運営に当つた1人として、深くお詫び致します。今回、研究会を運営した側からの感想ということで、以下に2～3述べてみたいと思います。

× × × × ×

根釧地方を中心として、現地研究会を開くことになつたとき、われわれはまず、どんな内容とスケジュールにするかについて検討しました。根釧は御承知のようにきわめて広い地域のため、限られた日程の中では、到底十分な内容を盛り込むことができません。そこで、従来半日程度の時間をとつていた総合討議を省いて、現地見学を主体とし、そこでいろいろとディスカッションをしていただく方が根釧酪農をより多く理解していただく上からも効果的でなかろうかと考えました。草地研究会の会員は研究機関をはじめ行政、普及、会社関係と巾広い範囲にわたつておりますので、参加された方々が、まずより多くの現地の実態に接していただき、それぞれの立場から、問題意識を感じとられ、研究課題として持帰つていただくということを期待したわけです。

つぎに現地見学の地点選定です。根釧の酪農は、ここ2～3年目覚ましい進展をみせております。かつての根釧のイメージは、広大な土地に恵まれ、草地は粗放管理下におかれた低位生産地であつて、牛1頭当り2haも使つているというものでした。しかし、近年は経営の大型化と多頭化に伴つて、既存農家はもちろん、かつて脚光を浴びたパイロットファームでも、徐々に集約化の方向を辿つています。そこでこのような推移を比較的集約的経営と、依然として広大な面積をもつ大型経営とを対比してみようと思つた。つぎに、現在なお開発途上の根釧で、最近のパイロットファームと、十数年前のパイロットファームを対比し、草地造成、立地条件、経営規模などを紹介しようと思つた。一方、近年公共草地の問題が注目されておりますので、当地方のやや古い開陽台町営牧場、新しい国営大規模草地の多和地区について、その草地、飼養、運営管理上の問題点を比較検討していただくと思つた。

以上のような趣旨が、果して参加された方々に御承知いただけたかどうかは自信がありませんが、この外、折角遠方より参加していただいた方へのサービスとして、尾岱沼のエビを味わつていただき、（あいにくの雨で国後島の遠望ができず残念でしたが）夜は山峡の養老牛の湯に疲れを癒していただきました。

今回御参加の方々には、いささかなりとも根釧の実態を御理解いただけたかと存じますが、上述のような趣旨に沿つて、ここに簡単にその内容と問題提起をしてみたいと存じます。

× × × × ×

まず、経営規模の違いによる農家を3戸(売場、高橋、佐伯)御案内しました。

計根別の高橋農場(2日目午前)は、面積40ha(内草地35ha)、牛70頭(内成牛35頭)で牛1頭当草地は0.6~0.8haで、根釦草地型酪農でもつとも集約的経営です。労働力は3人強ですが、管理機械を十分に取り入れ、合理的肥培管理と効率の草地利用により草生産は平均50t/ha、産乳量は5,000kg/頭、40t/ha以上の生産となつております。

パイロットファーム床一の売場農場(1日目午前)もやや集約的な方で、面積35ha(内草地25ha)、牛34頭(内成牛24頭)、牛1頭当草地は1ha弱です。労働力は4人で、管理用機械は6戸共同です。ここの特徴は、平屋式牛舎で、屋根をファイロンとし、夏冬とも採光を考え、その施設費が少ないことです。(普通キング式畜舎は坪当4.6万円に対し、ここでは1.3万円)また、牛舎内作業省力化のため創意工夫も注目されました。

一方、俣落の佐伯農場(1日目午後)は、経営面積は実に144ha、内草地は粗放管理の永年放牧地を含めて122ha、牛77頭(内成牛49頭)、牛1頭当草地は1.5~2.0haの大型粗放経営です。労働力は5人で、管理用機械はむしろ高橋農場より少ないようです。牛乳生産は、5000kg/頭、1.6t/haですが、その総生産は年間約200tで、管内生産番付の3役格を占めています。

以上3戸の個別経営からみて、自然条件に制約されている根釦では、一体どんな形態が有利なのだろうか。佐伯農場では、現在安い草を食せており、今後も若干の投資(例えば施肥や機械)でかなりの頭数増が期待できる土地があります。しかし、高橋農場では、経営費も高く、今後かなりの技術的発展がなければ頭数増は困難と思われる。根釦酪農の将来を考える上で、重要な課題と思われる。

大型酪農経営では、管理用機械の導入は不可欠ですが、今回はパイロットファーム床2の機械共同利用組合(1日目午前)を見ました。現在43戸の共同でトラクター13、ハーベスター5など、主として牧草収穫用機械を揃えております。このような一種の技術信託は、戸当投資額の低下と機械利用効率の上からは有効ですが、作業計画の早晩に伴う収穫牧草の品質差を生じ、各戸平等にならず、また今後の経営拡大にどう対処して行くかが問題となると思われます。

土地資源の豊富な根釦では、つぎつぎと大型農業開発計画が実施されていますが、今回その成果を紹介するためパイロットファーム(以下PFと略す)を御案内しました。根釦PF(1日目午前)は昭和31~39年に361戸入植しましたが、その後の農業情勢の変化により昭和40年計画変更されました。現在約260戸、1戸当30ha(内草地約25ha)、飼養頭数28頭(うち成牛約20頭)、牧草収量35~38t/haで根釦原野ではかなり集約的であります。また平均粗収入は320万円(44年度)で、格差が少ないようです。しかし、計画変更後、増反地が飛地であつて、不便を感じており、さらに今後の経営拡大にはなお集約化が必要であり、そこには多くの技術的問題が残されています。

一方、根釦PFより約10年新しい春別PF(1日目午後……雨のため窓外に望見)は、計画では1戸当37ha(内草地31~32ha)、飼養頭数25頭(成牛約20頭)で、現在なお継続入植中です。現在の初期入植者は、地元からの酪農経験者が多く、かなりの実績をあげています。このように農業開発計画が変遷する農業情勢の下で進められ、今また50ha、50頭の新酪農村事業が発しようとしています。このような行政的施策は結構ですが、古い計画で入植した農家の経営拡大にも、もつと重

厚な配慮が必要と思われます。

根釧の公共草地は、今回多くみることができませんでした。パイロットファームの協和牧場（1日目午前、窓外に望む）は面積270haで、昭和41年から夏季放牧のみ行っており、45年は約500頭放牧していました。預託料がやや高いが、施肥も十分行なわれ、草生良好で、草地コンクール入賞の実績があります。45年秋から、一部冬季預託を始めます。中標津町営開陽台牧場（1日目午後、雨のため窓外に望見）は、面積1100haで、昭和37年から緑ヶ丘牧場と組合わせ、周年預託方式で出発しました。しかし、冬季預託頭数の不足から、独立採算制の運営に大きな赤字を出し、公共草地運営問題に多くの教訓を残しました。現在、冬季預託を中止し、夏季放牧の枠を拡げて再建に努めています。なお、開陽台からの展望は、雄大な根釧原野を一望できるので、根釧を訪れる人には是非その遠望を味わって貰いたいと思います。国営大規模草地である多和地区（2日目午前）は、今回実際に見ていただきましたが、計画草地面積は1018haで、現在道が運営管理しています。45年は、草地627ha、放牧頭数870、放牧期間150日で、冬季は100頭、215日間預託しました。現在私達も草地維持の面から若干協力していますが、季節生産の不均衡から放牧計画に苦勞しています。またマメ科草優占による鼓張症、草地土壌の侵蝕、経年化に伴う草地生産性低下、畜舎施設など、問題は山積しております。

最後に、当地方酪農に関する試験研究を担当している根釧農試（1日目、午後）をみていただきました。会場はここ2〜3年で建物、研究備品などが整備され、研究効率は一段と高まりました。現在の研究の一端を紹介すると、作物科では適草種選定と混播法確立、土壌肥料科では高位生産のための施肥と土壌管理、草地科では放牧期間延長と草地の省力管理、病虫科ではオーチャードグラスの冬枯、アカクローバ黒葉枯病、酪農科は合理的飼養法確立、飼料の効率調整とその評価法、子牛の早期育成、酪農経営の投資限界、管理科は牛舎や草地管理の効率化などが主要テーマです。将来の大型草地酪農確立のためにはなお多くの技術的諸問題の解決が必要と思われます。

× × × × ×

以上、今回の研究会の内容について述べましたが、会を運営した側から2〜3の反省と感想を述べ、今後の参考に供したいと存じます。まず、参加申込は、宿泊や準備の都合もあつて、かなり早く締切りましたが、会員各位の御都合もあつて、結局は開催日前日まで申込があり、一方解約もほぼ1割強で、確定参加者を把握するのに苦勞しました。このような多人数の団体になりますと、この程度のことはいは当然とも考えられますが、そのために種々の点で参加の皆様にご不便を掛け、申訳なく思っております。一方、経費面でも窮屈な予算を立てましたため、関係各方面から、多大の御配慮をいただくことになりましたが、ここに厚く御礼申し上げたいと思います。とにかく、この大任を曲りなりにも果すことができ、会員各位にいささかなりとも根釧の一端を紹介できたことを、心から喜んでおります。

参加会員各位には、その立場立場によつて、根釧酪農の実態の中から感じられたことも多いと思いますが、今後も機会がありましたら、根釧酪農の発展のために、種々と御助言、御指導を心から切望したいと思います。

## 北海道草地研究会現地研究会に参加して

喜 多 富美治（北大農学部）

根釧農業を知らずにして草地酪農を語る資格なしと時折り耳にするが、その通り無資格の私が止むを得ず印象記をお引受けすることになった。それは見学を終って数ヶ月後であつたので誤り等あればご寛容いただきたい。

約240名にのぼる多数の会員が参加して、9月3日3台のバスおよび乗用車に分乗し見学が開始された。関係者の祈るような気持をよそに小雨がちとなり、時おり烈しい降雨があつた。このため一部見学か所の省略を余儀なくされたが、総じて支障なくむしろ厳しい自然条件下での根釧の営農の実態に接し得、参加者はそれぞれ全域にわたり多くのことを見聞き認識をあらため、問題点をより明瞭にしたと確信する。

3個人営牧場の視察が含まれていた。すなわち集約的酪農家として売場牧場（根釧PF床丹第1地区・昭34入植）、大型酪農家として佐伯牧場（中標津第2俣落・昭28入植）、そして優良農家事例として高橋牧場（計根別農業組合長でもある）を訪ずれた。それぞれの経営形態に対応し畜舎の設計からすみずみの施設まで成程と思うことばかりであつた。とくに佐伯氏の種々困難な背景のもとに今日までの苦闘のお話しは全人格が溢れ出て多くの生きた教訓を与えたと思う。

根釧PF第1機械利用組合の視察において、大型作業機械の共同利用の運営管理の実際にふれ得た。雨のため俣橋地区の大規模草地改良事業を見ることは出来なかつたが、釧路支庁管内の多和地区国営大規模草地を視察し得た。造成事業はほぼ終番に入り、広大な緩丘陵地帯見渡す限り緑の草原で、はるか彼方に放牧牛が点在しているのが見えた。冬期間の預託施設も完備されている。統計資料によれば確かに個別経営の零細性を脱却していない。他にもいくつかの公共育成牧場があるが、さらにその拡大と合理的利用が必要であろう。

草地酪農の諸問題に関し根釧農試でとりくんでおられる各種試験について、詳細にわたる説明を得た。根釧両支庁管内の広大な地域の見学の間、各町村から基幹産業として草地酪農こそ歩むべき道であることを強く訴えられたと思う。既に乳・肉の生産基地として力強い足音が聞かれる。このことは研究センターとして根釧農試が草地農業の技術開発と指導に尽力されてきた賜であり、今後の発展を心から祈念して止まない。広範な専門を含む参加会員も見聞き討論し考えたことは必ず研究に生かされ根釧農業に反映するであろう。

最後に、現地研究会開催に当り、初期の目的を十分に果し盛会裡に無事円滑に終了させていただいた。ひとえに地元根釧農試の松村場長の思慮深いご配慮とお骨折によるものと思う。また科長各位をはじめ場員総出で細部にわたりご配慮を賜つた。そのご苦勞とご厚情に対し参加会員各位とともに深甚なる謝意を申しあげたい。